



## ●サンゴ礁にすむ魚たちの産卵

### —いつ卵を産むの?—

サンゴの神秘的な産卵シーンはみなさんよくご存じでしょう。阿嘉島の海では、多くのサンゴが初夏の満月の頃に産卵します。阿嘉島臨海研究所では、10年以上もサンゴの産卵調査を続けており、その成果についてはこれまでのアムスルだよりでも詳しくお話ししてきました。ところで、サンゴ礁の海は、美しい熱帯魚たちの楽園でもあります。少しシュノーケリングしてみるだけでも、美しいサンゴ礁を泳ぐ色とりどりの魚たちを観察できます。今回はこんな魚たちの産卵についてお話ししましょう。

阿嘉島には毎年多くのダイバーが訪れますが、実際に海の中で魚の産卵シーンを見たダイバーは少ないのではないのでしょうか。もちろん、ダイビング中に、イ

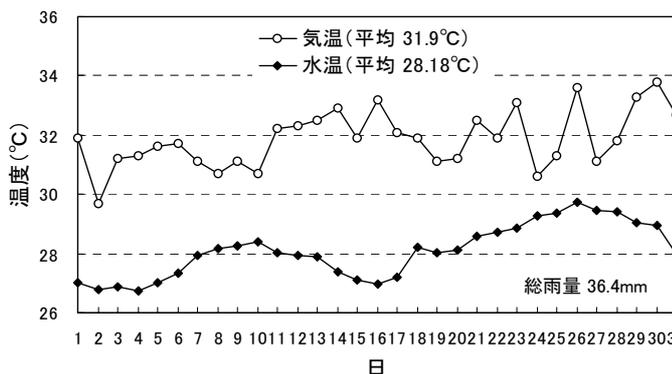
ソギンチャクの近くの岩盤に産みつけられているクマノミ類の卵やムチカラマツに産みつけられているガラスハゼの卵などをご覧になった方は多いと思います。しかし、実際の求愛・産卵行動を目撃する機会は多くありません。それでは魚たちはいつ産卵しているのでしょうか？

阿嘉島周辺のような亜熱帯の海では、多くの魚たちが春から秋まで産卵しています。産卵を行わない時期は、最も水温が低くなる冬の時期だけです。また水温が最も高い時期にも、産卵を一時休止する魚がいることもわかっています。まさに魚たちの夏休みと冬休みですね。もちろん、ごく短期間しか産卵しない魚もいますし、ポピュラーな魚でありながら、産卵時期がよくわかっていないグループ（例えばチョウチョウウオ類）もいます。ただ、多くの魚たちは長い期間産卵していて、その中にはほとんど毎日卵を産む種類もいるので、ダイバーが魚たちの産卵に遭遇するチャンスも少なくないはずです。

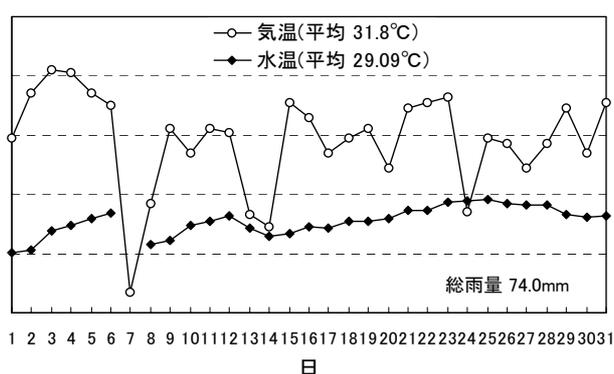
ダイバーが魚たちの産卵を見る機会が少ない原因は、産卵の時刻にあります。実は、サンゴ礁にすむ魚たちの産卵は、日出か日没の時間帯に集中しているのです。もちろん日中や夜間に産卵する魚たちもいます。しかし、多くの魚たちが

## 定点観測

2003年7



2003年8月



はくめい はくぼ

薄明薄暮の薄暗い海で子孫を残しているのです。そんな時間帯はみなさん寝ているか、夕食をとっているかでしょうし、見逃すのは当然ですね。

サンゴ礁の魚たちは、水に沈み、サンゴ岩盤などの基質に付着する沈性卵を産むものと、水に浮く浮性卵を産むものに大別できます。沈性卵を産むグループには、スズメダイ類、イソギンポ類、ハゼ類、モンガラカワハギ類などがいます。このようなグループは、夜明けの頃に産卵するものが多いのです。産卵は数日間隔で行われ、親が産み出された卵の保護を行うケースがほとんどです。一方、浮性卵を産むグループは、ベラ類、ヤッコ類、トラギス類などで、日没の頃に産卵します。産卵は繁殖期を通じてほとんど毎日行われます。このようなグループでは、親は子の保護をまったく行いません。日没の頃は、卵を食べようとする捕食者たちの活動が鈍く、この時間帯の産卵は、卵の捕食を防ぐためであるという説があります。

魚たちの求愛・産卵行動は、サンゴの産卵に負けずおとらず感動的なシーンです。ダイバーのみなさんもし機会があれば、薄明薄暮の薄暗い海に潜ってみてください。この感動的なシーンを見ることが出来るかもしれません。

## ● 阿嘉島の海より

### —海水温の上昇—

この夏、海で泳いだ人はわかると思いますが、今海水の温度がとても高くなっています。上のグラフは毎朝 10 時に測定している気温と海水温ですが、8 月の下旬の海水温は 30°C 近くにまでなっているのがわかります。午前中でこのような状態ですから、天気の良い日の午後は 30°C を越えていました。このように水温が高くなっているのは、沖縄周辺に暖水渦（周辺よりも温度の高い海水の塊）が接近しているためです。このような時は海面が盛り上がるため、異常潮位となります。高すぎる海水温はサンゴなどの海の生き物にとって良いものではありません。阿嘉島周辺のサンゴやイソギンチャクでは色が抜けて白くなっているものも見られます。「白化現象」と呼ばれる現象です。このような状態が長く続くとサンゴはやがて死んでしまいます。1998 年、2001 年も海水温が高く、白化現象がみられ、たくさんのサンゴが死んでしまいました。ただ、今回はそれほど大きな被害にはならないとみています。

今、阿嘉島は水不足でもあります。台風が冷たい海水と雨を運んでくれるといいのですが・・・。